PRESS RELEASE

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

企画展 茶席を彩る中国のやきもの

2019年5月25日（土）～8月4日（日）

村山コレクション秘蔵の中国陶磁を一堂に紹介

中之島香雪美術館は、2019年5月25日（土）より、企画展「茶席を彩る中国のやきもの」を開催いたします。

公益財団法人香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平（1850−1933）が収集した美術品を所蔵しています。村山は茶の湯にも傾倒し、多くの茶器や懐石道具を集めました。

今回、中之島香雪美術館では、村山コレクションの中から、室町時代に舶来の茶器として珍重された天目茶碗や青磁の花入、明時代末期の景徳鎮窯で制作された「古染付」「祥瑞」とよばれる鉢や皿など、茶席に彩りを添える中国陶磁102点を一堂に紹介します。

本展ポスター画像

会　　期	2019年5月25日（土）～8月4日（日） 月曜休館＜ただし7月15日（月）は開館、翌16日（火）休館＞
開館時間	午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
料　　金	一般900（700）円、高大生500（350）円、小中生200（100）円 ＊（ ）内は前売り（一般のみ）、20名以上の団体料金 ＊前売り券は5月24日まで香雪美術館（御影本館）、中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主　　催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

＊全作品102点のカラー図版と解説を収録した図録をミュージアムショップで販売。1部2,000円（税込）。

みどころ

村山が収集し茶会で使用した茶器や懐石道具には、鎌倉時代から近代にかけて日本へもたらされた中国のやきものが、少なからず含まれています。天目のように、もともと中国で抹茶を飲むために作られた茶碗もあれば、茶入のように、本来何かの容器として作られた日用品が、日本で抹茶を入れる容器に転用され、大名や豪商たちの垂涎の的となるほど珍重されたものもあります。また、明時代末期の景徳鎮窯で制作された古染付や祥瑞は、茶の湯で使うために日本から注文されたものです。村山コレクションの中国陶磁は、中世から連綿と続いた貿易陶磁史の縮図とも言えます。

これまで公開される機会が極めて少なかった建窯「油滴天目」（写真Ⓐ）や、大正時代に刊行された豪華茶道具図録に掲載されて以降、100年近く秘蔵されていた吉州窯「梅花天目」（写真Ⓑ）などの茶碗を披露します。室町時代後期（16世紀）の記録に登場し、400年以上前からその存在が確認できる唐物「肩衝茶入　銘　薬師院」（写真Ⓒ）や、江戸時代後期（19世紀）に相撲と同様の「番付」が作られるほど人気が高まった様々な香合、形・文様ともに幅広いバリエーションを見せる古染付や祥瑞の懐石道具なども出品します。

Ⓐ建窯「油滴天目」（南宋時代、12～13世紀）

Ⓑ吉州窯「梅花天目」（南宋時代、12～13世紀）

Ⓒ唐物「肩衝茶入　銘　薬師院」（南宋～元時代、13～14世紀）

Ⓓ景徳鎮窯「古染付鹿馬図富士山形鉢」（明時代末期、17世紀）

Ⓔ景徳鎮窯「五彩花鳥図皿」（明・万暦年間、1573～1620）

Ⓕ漳州窯「交趾大亀香合」（明時代末期、17世紀）

Ⓖ景徳鎮窯「色絵団龍花卉文水指」（明時代末期～清時代初期、17世紀）

Ⓗ龍泉窯「青磁筍花入」（南宋時代、13世紀）

主な出展作品

記号	作者･生産地	作　　品　　名	時　　代
A	建窯	油滴天目	南宋時代、12～13世紀
B	吉州窯	梅花天目	南宋時代、12～13世紀
C	唐物	肩衝茶入　銘　薬師院	南宋～元時代、13～14世紀
D	景徳鎮窯	古染付鹿馬図富士山形鉢	明時代末期、17世紀
E	景徳鎮窯	五彩花鳥図皿	明・万暦年間、1573～1620
F	漳州窯	交趾大亀香合	明時代末期、17世紀
G	景徳鎮窯	色絵団龍花卉文水指	明時代末期～清時代初期、17世紀
H	龍泉窯	青磁筍花入	南宋時代、13世紀

※記号欄(A～H)は貸出写真記号

記念講演会

徳留 大輔さん（出光美術館学芸員）

日　　時　　2019 年 7 月 27 日（土）14:00 ～ 15:30（13:30 受付開始）
テーマ　　「青磁と天目ー中国陶磁史研究の最前線からー」
会　　場　　中之島会館（中之島香雪美術館隣）
参加料　　1,300 円（美術館入館料含む）
定　　員　　250 名

【応募方法】
往復ハガキ（1 枚で 2 名様まで応募可能）に、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信ハガキで参加証を郵送します。

○宛先：〒530-0005　大阪市北区中之島 3-2-4　中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
　　中之島香雪美術館　徳留大輔 講演会係
○締切：7 月 5 日（金）消印有効
○美術館は午前 10 時開館です。講演会前に展覧会をご覧いただくことも可能です。

美に寄せる想い――村山龍平記念室（常設展示）

村山龍平

中之島香雪美術館では、村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりまぜ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（玄庵）などの建物と庭園からなる広壮な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまなおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の河合幾次、和館書院棟の藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。

旧村山家住宅

村山龍平記念室　洋館2階居間の再現

國華　創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『國華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『國華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『國華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目に相伴席の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をＣＧ加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏が設計・監修し、元禄年間創業の安井杢工務店が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。

茶室「中之島玄庵」

茶室「中之島玄庵」内部

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」　担当:日置(ひおき)

TEL 06-6210-3633　FAX 06-6210-4190　Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4　中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

（西暦）　　年　　月　　日

取材について

取材者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名（連絡者）
	住所　〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数　　名
取材希望日時	（西暦）　　年　　月　　日　　時　　分 ～　　時　　分	
媒体	種別　□テレビ　□ラジオ　□新聞　□雑誌　□その他（　　）	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	（西暦）　　年　　月　　日　　時　　分 ～　　時　　分	
取材の範囲	撮影　□する（撮影機材　□スチール　□ENG　□DVC） □しない	
備考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作品画像		中之島香雪美術館 館内画像	
中之島香雪美術館 資料画像		ロゴ画像	

注意事項	企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。 原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申込先	「中之島香雪美術館」　担当:日置（ひおき） TEL 06-6210-3633　FAX 06-6210-4190　Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4　中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階